

ライフケアガーデン熱川 原則子(生活相談員)

功 績 看護師及び介護スタッフでも気付かなかった利用者さんの「本当の思い」を聞き出したことにより、退居という事態を未然に防いだことに貢献した功績。

推 薦 者 梅原 春美(看護師長)

推 薦 理 由 原は利用者さんと一緒に過ごす時間をとても大切にしております。
利用者さんの安心を「心」の面から支えることは大変頼もしいことであり、理事長賞候補に推薦するに値します。

内 容

原則子さんは、ライフケアガーデン熱川の事務に入職してもうすぐ10年が経ちます。いつも利用者さんに寄り添い、レクレーションや傾聴を行っています。

Hさんは夫婦で、H29年4月に本館6階へ入居されました。夫婦仲はとても良く、職員とも気さくに話し、レクレーションにも積極的に参加するなど、ライフケアガーデン熱川での生活を楽しんでいました。しかし、その一ヵ月後の5月に夫がご逝去されると、とても元気をなくし、職員ともあまり話さなくなっていました。ただ、看護師及び介護スタッフの一部には心を許しているようでした。

H30年7月、同じ本館6階にSさんが入居すると、お向かいの部屋ということもあってすぐに仲良くなりました。SさんはよくHさんのお部屋で、一緒に折り紙を作ったり、テレビを見たり、おしゃべりをしていました。ただ最近、Hさんの部屋に居る時間が長くなっていたため、Hさんに迷惑になっていないかと、コミュニケーションのとれている看護師や介護スタッフが、Hさんに聞いたところ、「そんなことはないよ」、「楽しくやっていますよ」という事でしたので特に気に掛けなかったそうです。私も、気になっていたもので、看護師長に確認したところ特に問題はないとのことでした。

ある時、ホーム長相談があります。と、原より話がありました。実は、HさんはSさんのことで悩んでいます。部屋に居る時間が長いことも困るのですが、それ以上に、最近では人の悪口を言ったり、攻撃的になったりと、以前の様に一緒に居ても楽しくないことがあるそうです。その思いはだんだんとエスカレートしていき、「もうここには居たくない」、「もう少ししたら、ここを出て行こうと思っています」、Hさんはそのことを誰にも言えず(とても気を遣う方であり迷惑を掛けてはいけないと、普段からコミュニケーションがとれている看護師&介護スタッフにも話せず)悩んでいました。

普段から「とことん傾聴」をモットーにしている原は、Hさんが最近元気がないと思っており、時間を掛けゆつくりと話を聞き、Hさんの心の扉をあけ、その思いに気づくことができました。普段から利用者さんとの会話の中でのちょっとしたことに気が付いたり、気を配ったりと、その心ある姿が利用者さんから絶大なる信頼を得たことにより、「本当の思い」を話してくれたのだと思います。